

RESAS（地域経済分析システム）を活用した分析

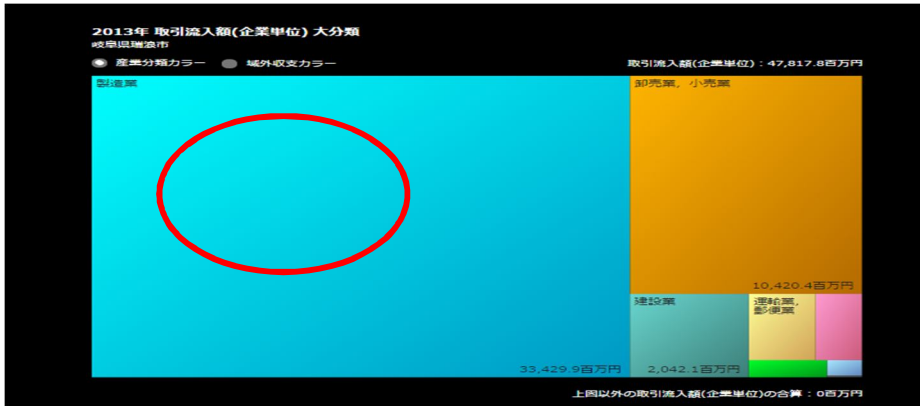
岐阜県瑞浪市

2015年8月

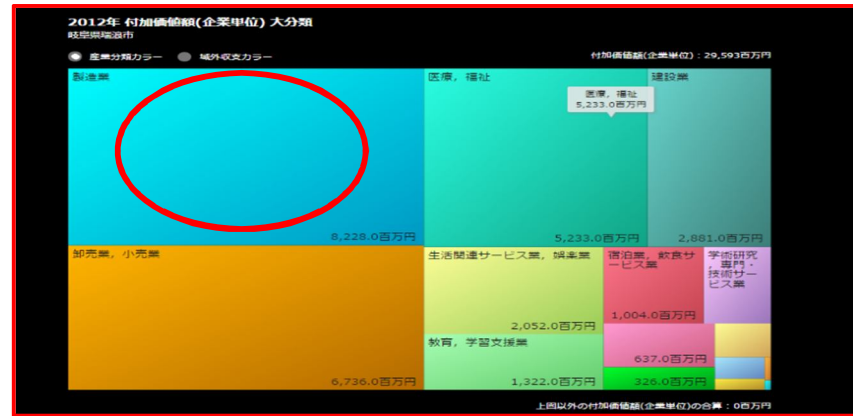
1.産業編

- ・ 全産業花火図を大分類で表示し、「域外から資金を獲得している産業」、「付加価値を多く生み出している産業」、「雇用を支えている産業」という3つの視点で地域経済を把握すると、製造業（下図赤丸）が各部門で1位になっていることが確認できる（図表1-1、1-2、1-3）。
- ・ また、製造業は2011年から2013年にかけて売上高も伸びており、納税という形で地域経済に大きく貢献している産業といえる。（図表1-4）

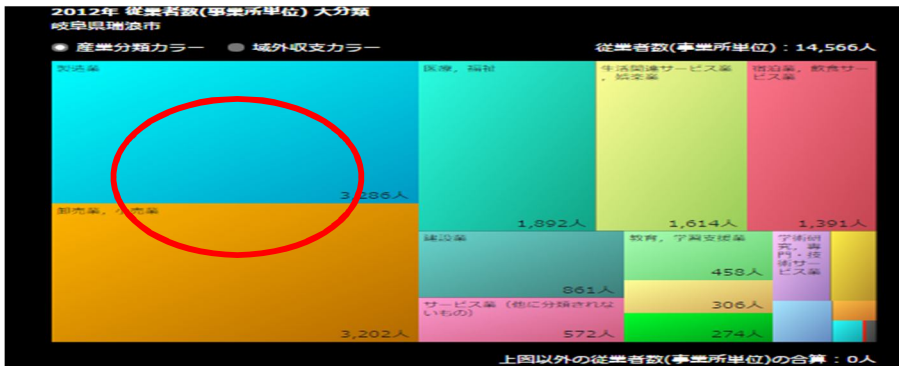
図表1-1 産業大分類別 取引流入額（企業単位、2012年）



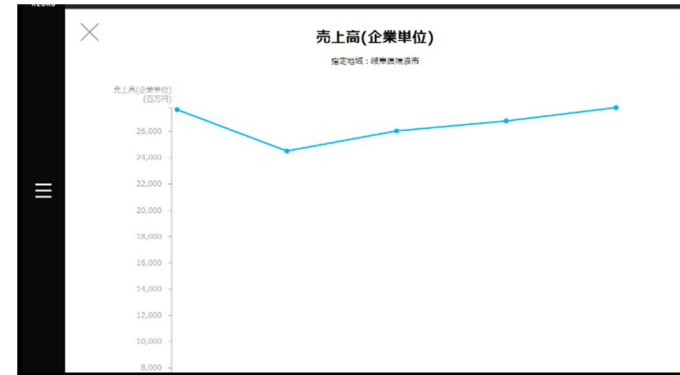
図表1-2 産業大分類別 付加価値額（企業単位、2012年）



図表1-3 産業大分類別 従業者数（事業所単位、2012年）
（企業単位、2009年～2013年）



図表1-4 製造業売上高推移

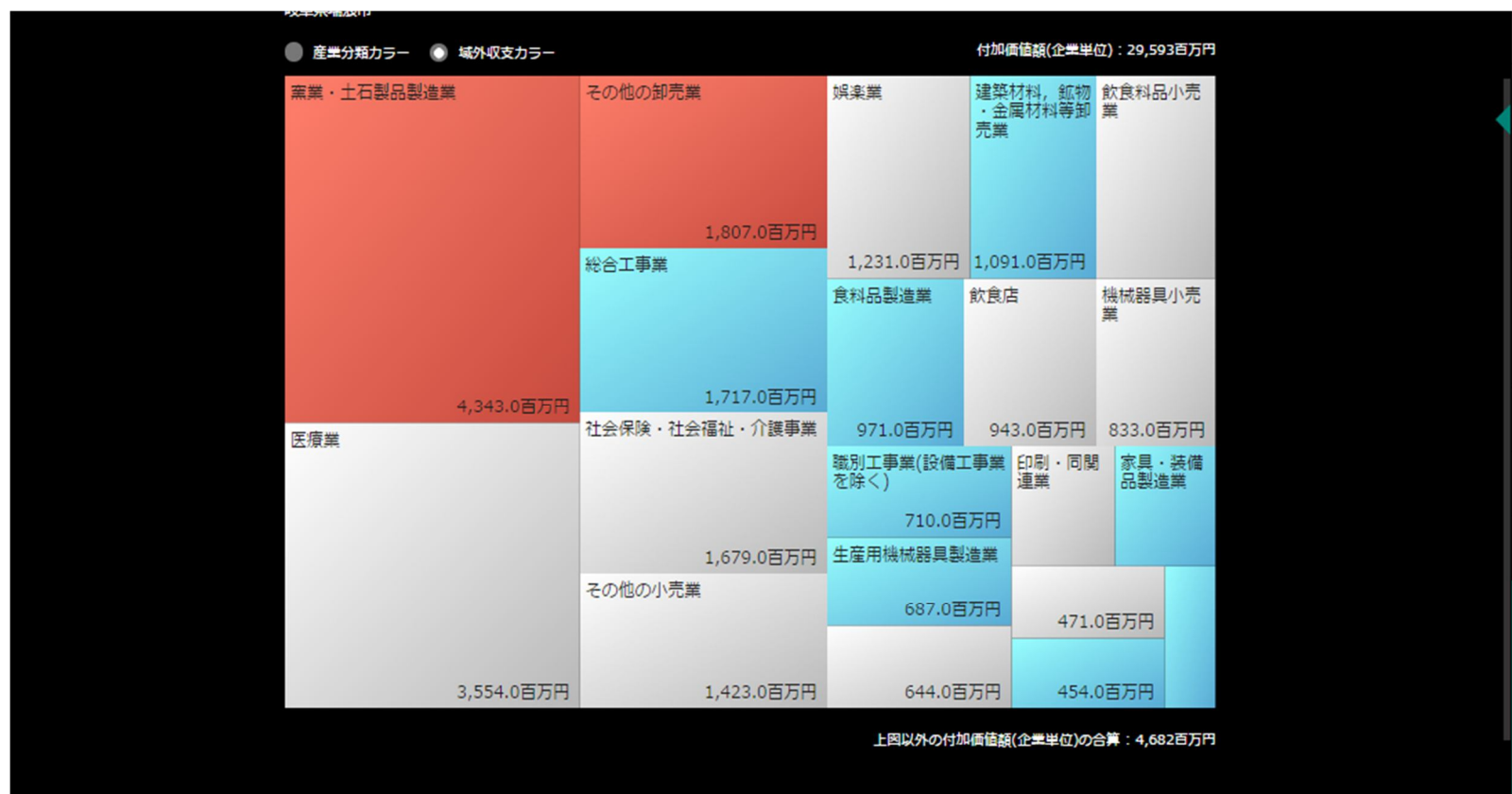


* 表題に記載されている「事業所単位」とは事業所単位で集計されている統計を示し、「企業単位」とは企業単位（本社ベース）で集計されている統計を示しているため、

域内の事業所や工場などのデータは反映されていない点に留意する必要がある。

- ここで製造業について詳しく分析するために、全産業花火図を中分類で表示すると、陶磁器産業で有名な瑞浪市の場合は、製造業のうち窯業・土石製品製造業、陶磁器卸売業が分類されるその他の卸売業が経済活動を通じて域内に付加価値をもたらしていることがわかる。
- 域外収支カラー(*)で花火図を表示すると、これらの産業は域外からの資金獲得の面でも貢献しており、財源が限られている中でこれらの産業を支援することが地域経済活性化の大きな柱となる。

図表 1-5 産業中分類別 付加価値額（企業単位、2012年）

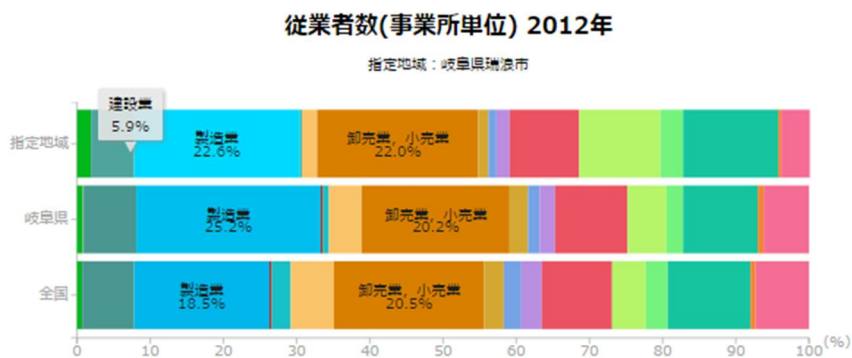


* ある産業に属する企業群について、地域外に販売した金額から、地域外から仕入れを行った金額を引いて、0以上の産業（地域外から資金を稼いでいる産業）を

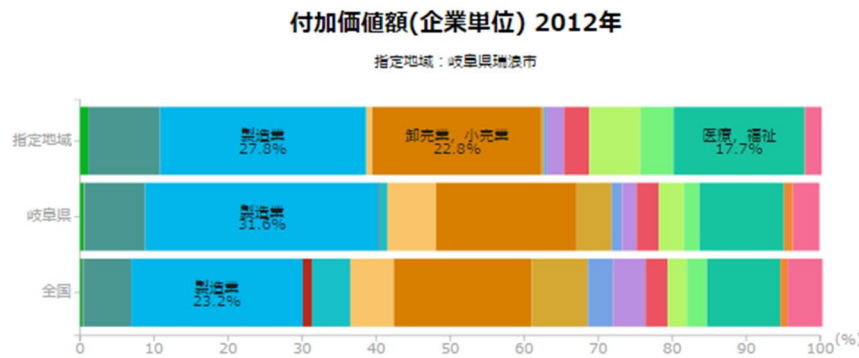
赤、0未満の産業（地域外に資金が流出している産業）を青で表示している。なお、値の計算できない産業はグレーで表示している。

- ・ 製造業の産業の集積度を把握するために、全産業花火図の棒グラフを表示し、従業者数と付加価値額の2つの視点から見ると、従業者数については、窯業・土石製品製造業の構成比が特筆して高く、特化係数（*）も最も高い（図表1-6,1-8）。また、付加価値額については、窯業・土石製品製造業が構成比及び特化係数ともに最も高いことが確認できる（図表1-7,1-9）。

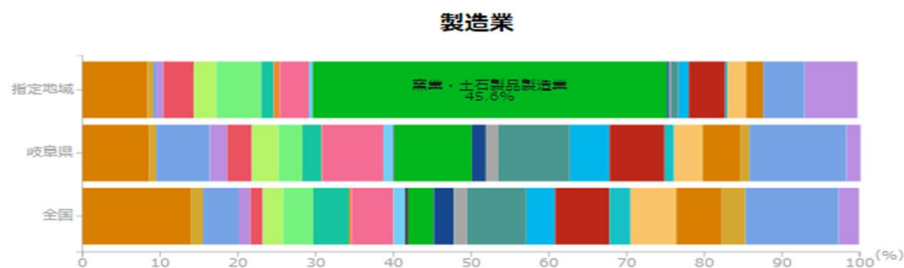
図表1-6 産業大分類別 従業者数構成比（事業所単位、2012年）



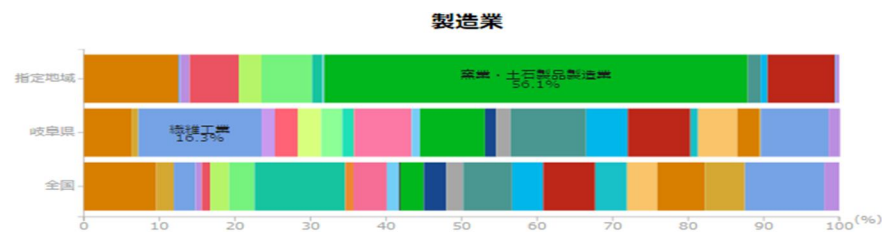
図表1-7 産業大分類別 付加価値額構成比（企業単位、2012年）



図表1-8 製造業産業中分類別 従業者数構成比（事業所単位、2012年）



図表1-9 製造業産業中分類別 付加価値額構成比（企業単位、2012年）



従業者数	①瑞浪市 構成比	②全国 構成比	特化係数 (=①/②)
窯業・土石製品製造業	51.3%	3.2%	16.03
家具・装備品製造業	4.7%	1.6%	2.94

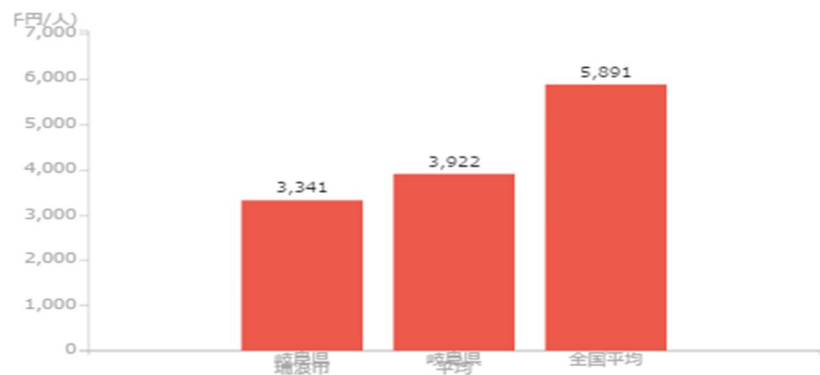
付加価値	①瑞浪市 構成比	②全国 構成比	特化係数 (=①/②)
窯業・土石製品製造業	56.1	3.1	18.10
家具・装備品製造業	6.5	1.1	5.91

- * 特化係数:自地域の構成比率を全国の構成比で除した値。この値が1以上であれば、自地域に当該産業が集積していることを示す。
- ・ 瑞浪市の窯業・土石製品製造業の課題を把握するために、自治体比較マップを活用し、当該産業の労働生産性（付加価値額／従業者数）を岐阜県全体及び全国の数値と比較すると、窯業・土石製品製造業は低い労働生産性を示していることがわかる。このことは、付加価値を高める支援策を必要としていることがわかる。

図表 1-10 窯業・土石製品製造業労働生産性（企業単位、2012年）

労働生産性（企業単位） 2012年

産業：製造業 > 窯業・土石製品製造業



【出典】

総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工

【注記】

付加価値額÷従業員数で算出。

【その他の留意点】+

労働生産性（企業単位）順位

岐阜県瑞浪市

2012年

都道府県内

24位

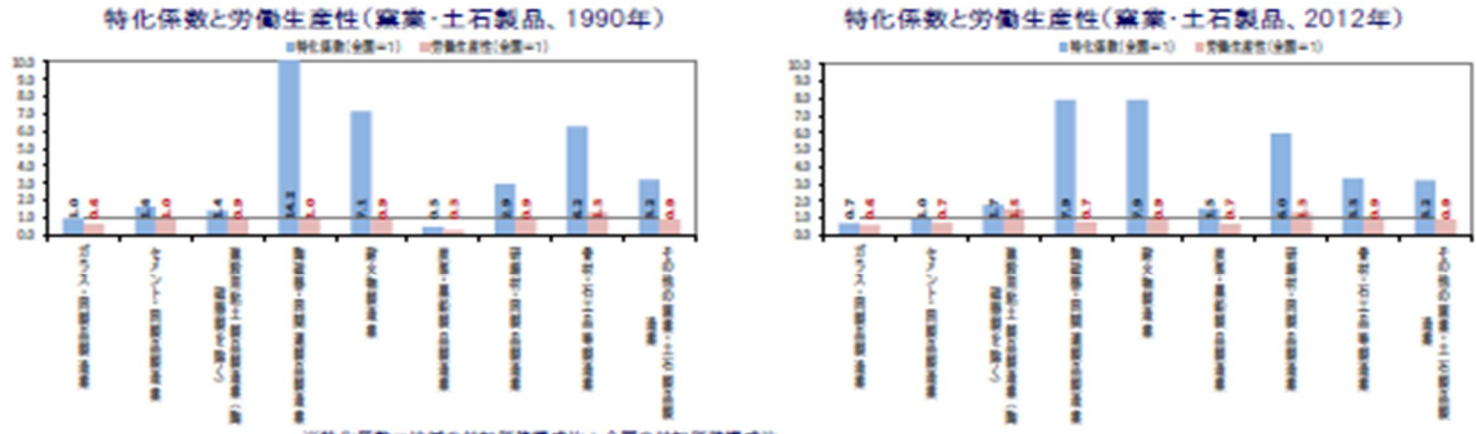
全国

863位

- ・ 窯業・土石製品製造業について詳細を把握するために、「岐阜県の地域経済分析」（経済産業省作成）を表示して産業省分類のレベルで1990年から2012年にかけての推移を確認すると、「陶磁器・同関連製品製造業」は1990年から2012年にかけて特化係数（14.2→7.9）が下降しており、労働生産性も下降（1.0→0.7）している。
- ・ 1990年と2012年を比較して、研磨材・同製品製造業の特化係数の伸びが大きい。また、建設用粘土製品製造業（陶磁器製を除く）の相対的労働生産性の伸びが大きい。

- ・ 産業全体で従業者数は減少。内容は業種によって異なり、研磨材・同製品製造業では増加する一方、陶磁器・同関連製品製造業では減少している。
- ・ 平均賃金の推移は業種によって異なり、研磨材・同製品製造業では増加する一方、骨材・石工品等製造業では減少している。

図表 1-11 窯業・土石製品製造業 特化係数・労働生産性・平均賃金の推移（企業単位、2012年）



※特化係数＝地域の付加価値構成比÷全国の付加価値構成比

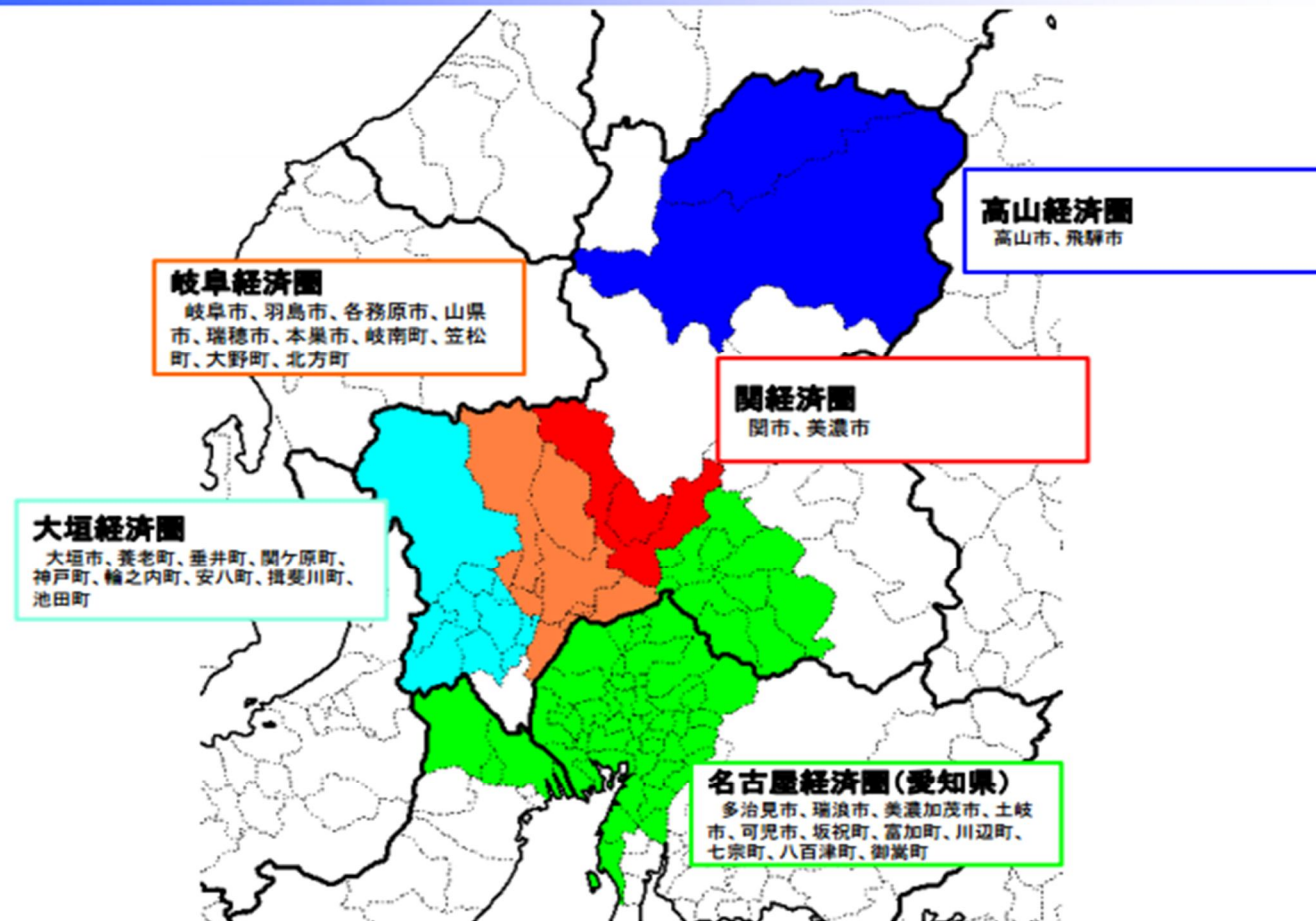
従業者構成比と平均賃金（窯業・土石製品）、1990年、2012年）

産業名称	1990年				2012年				差分(2012年-1990年)			
	事業所数	従業者数 (人)	従業者 構成比	平均賃金 (万円)	事業所数	従業者数 (人)	従業者 構成比	平均賃金 (万円)	事業所数	従業者数 (人)	従業者 構成比	平均賃金 (万円)
ガラス・同製品製造業	27	1,994	0.6%	442.5	23	1,123	0.6%	428.9	-4	-871	-0.2%	-13.6
セメント・同製品製造業	226	5,453	2.2%	396.9	122	2,466	1.3%	417.0	-104	-2,987	-0.9%	+20.1
建築用粘土製品製造業（陶磁器製を除く）	39	404	0.2%	361.5	8	97	0.1%	344.6	-31	-307	-0.1%	-16.9
陶磁器・同関連製品製造業	1,494	22,100	8.8%	315.0	431	7,977	4.2%	316.8	-1,063	-14,123	-4.6%	+1.8
耐火物製造業	61	2,259	0.9%	423.0	35	1,714	0.9%	458.8	-26	-545	-0.0%	+35.8
炭素・黒鉛製品製造業	9	232	0.1%	409.9	7	411	0.2%	443.8	-2	+179	+0.1%	+33.9
研磨材・同製品製造業	22	606	0.2%	355.5	17	835	0.4%	393.1	-5	+229	+0.2%	+37.7
骨材・石工品等製造業	230	3,977	1.6%	455.6	110	1,604	0.8%	428.9	-120	-2,373	-0.7%	-26.9
その他の窯業・土石製品製造業	160	2,053	0.8%	409.2	82	1,457	0.8%	369.9	-78	-596	-0.1%	-22.3
合計	2,288	39,078	15.6%	360.1	835	17,664	9.3%	374.3	-1,453	-21,414	-6.3%	+14.2

注：産業小分類は平成14年改訂基準、平均賃金は物価調整後、従業者構成比は都道府県の製造業全体の従業者数に対する比率、「-」は事業者が存在しないか、抜粋を示す。表中の計は積み上げベース、ただし差分は1990年、2012年の両方の数値が取得可能な小分類をベースに算出。

出所：経済産業省「平成24年工業統計」、「平成2年工業統計」、経済産業研究所提供データベースから作成

4. 岐阜県内の「経済圏」



(※)「日本の都市雇用圏設定基準」(金本良嗣・徳岡一幸『応用地域学研究』No.7, 1-15,(2002)による。

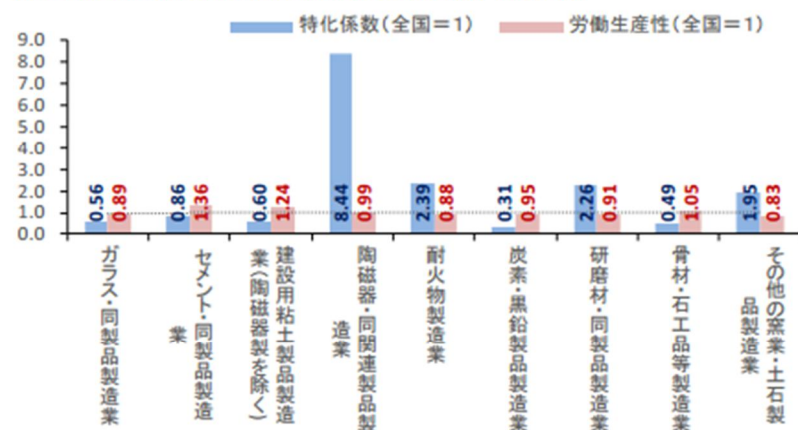
* 経済圏：①人口集中地区の人口が1万人以上、②周辺市町村から中心市町村への通勤率（通勤者数／就業者数）が10%以上の県域であり、市町村を超えて形成される通勤圏を表す。

4. 名古屋経済圏の産業特性（製造業小分類）

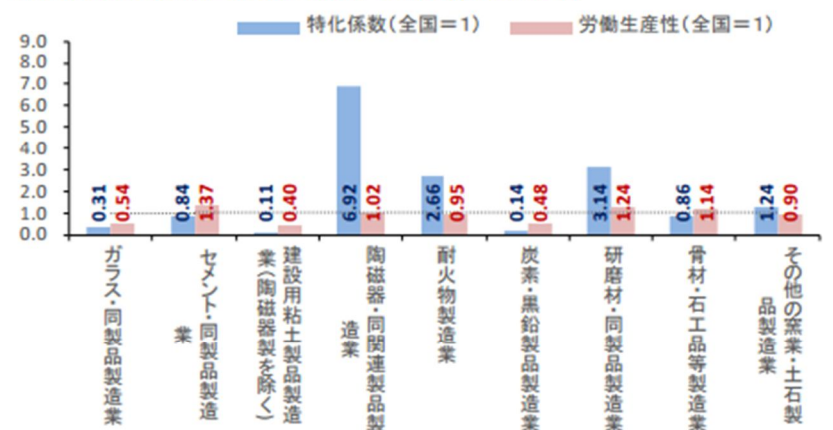
～窯業・土石製品～

- 窯業・土石製品全体としては、1990年と比較し、事業所数、従業者数ともに減少が見られ、産業として縮小傾向にあることが見て取れる。
- 小分類別に見ると、2012年の特化係数が最も高いのは陶磁器・同関連製品製造業、労働生産性指標が最も高いのはセメント・同製品製造業となっている。
- また、陶磁器・同関連製品製造業では、1990年から2012年にかけて、就業者数は減少、平均賃金は増加している。

特化係数と労働生産性（窯業・土石製品、1990年）



特化係数と労働生産性（窯業・土石製品、2012年）

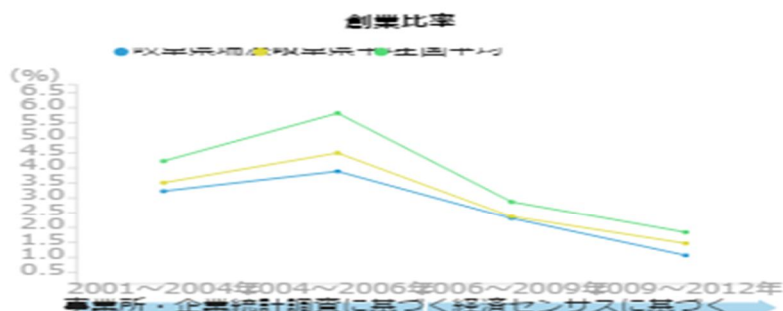


※特化係数＝地域の付加価値構成比÷全国の付加価値構成比

従業者構成比と平均賃金（窯業・土石製品、1990年、2012年）

産業名称	1990年				2012年				差分(2012年-1990年)			
	事業所数	従業者数(人)	従業者構成比	平均賃金(万円)	事業所数	従業者数(人)	従業者構成比	平均賃金(万円)	事業所数	従業者数(人)	従業者構成比	平均賃金(万円)
ガラス・同製品製造業	71	2,473	0.4%	482.2	43	1,633	0.4%	446.7	-28	-840	-0.0%	-35.5
セメント・同製品製造業	213	6,297	1.1%	479.1	119	2,962	0.7%	465.9	-94	-3,335	-0.4%	-13.3
建設用粘土製品製造業(陶磁器製を除く)	24	364	0.1%	392.5	5	69	0.0%	295.3	-19	-295	-0.0%	-97.3
陶磁器・同関連製品製造業	2,321	39,030	6.6%	354.6	657	14,524	3.4%	384.1	-1,664	-24,506	-3.2%	+29.5
耐火物製造業	86	2,298	0.4%	433.9	45	1,536	0.4%	456.4	-41	-762	-0.0%	+22.5
炭素・黒鉛製品製造業	5	135	0.0%	436.6	7	145	0.0%	370.2	+2	+10	+0.0%	-66.4
研磨材・同製品製造業	47	1,394	0.2%	476.8	30	1,315	0.3%	411.1	-17	-79	+0.1%	-65.7
骨材・石工品等製造業	112	1,156	0.2%	447.3	79	940	0.2%	431.2	-33	-216	+0.0%	-16.1
その他の窯業・土石製品製造業	314	4,010	0.7%	382.3	102	1,612	0.4%	408.5	-212	-2,398	-0.3%	+26.2
窯業・土石製品計	3,193	57,157	9.7%	384.3	1,087	24,736	5.8%	407.0	-2,106	-32,421	-3.8%	+22.7

- 自治体比較マップを使って創業比率を見てみると、2009年～2012年の創業比率は全国的に落ち込んでいるのがわかる。なお、瑞浪市の創業比率は1.07%で県内でも低いことがわかる。



【出典】
 総務省「平成13年事業所・企業統計調査」、総務省「平成16年事業所・企業統計調査」、総務省「平成18年事業所・企業統計調査」、総務省「平成21年経済センサス-基礎調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」

【注記】
 「平成21年経済センサス-基礎調査」より、新設事業所の定義を変更したため、2006-2009年の創業比率は過去の数字と単純には比較できない。
 創業比率は、個人、(法人)会社を足し合わせて算出しており、会社以外の法人及びその他の団体は含んでいない。
 【その他の留意点】+

創業比率順位
 岐阜県瑞浪市

2012年

都道府県内	全国
27 位	1,145 位

	2001~2004	2004~2006	2006~2009	2009~2012
瑞浪市	3.23%	3.89%	2.31%	1.07%
岐阜県	3.51%	4.50%	2.37%	1.47%
全国	4.23%	5.82%	2.87%	1.84%

